

2026年度入試用

別府大学大学院文学研究科
別府大学大学院食物栄養科学研究科

入試問題
解答／解答例および出題意図

2025年6月30日
別府大学大学院

これまで別府大学大学院文学研究科および食物栄養科学研究科では、当該入試年度以前の直近に実施した入学試験での試験問題を受験希望者の参考に供してきました。

このファイルは、それらの試験問題に、(1)解答（模範解答）または(2)解答例および出題意図を付して編集したものです。

なお、注意を要する点は以下のとおりです。

- ▽当日の欠席等で受験者のいなかった試験については対象としない
(推薦入試および社会人入試で外国語や専門科目が免除される場合を含む)
- ▽問題を除く表紙、見返しや受験にあたっての注意事項等は省略する
- ▽解答用紙として原稿用紙や罫線紙が指定されている場合は省略する

別府大学大学院文学研究科

日本語・日本文学専攻

入試問題

解答例および出題意図

博士前期課程：

- ・日本文学（古典文学）
- ・日本文学（近代文学）
- ・日本語学

問題 次のA～Cの中から一つを選び、答えよ。

A (日本文学専攻・古典文学)

次の作品の中から一つを選び、歴史的背景にふれながら文学史的意義を述べなさい。

- ① 竹取物語 ② 蜻蛉日記 ③ 新古今和歌集 ④ 宇治拾遺物語 ⑤ 雨月物語

B (日本文学専攻・近代文学)

次の一・二のどちらかを選び、解答せよ。

一 次に挙げる作家から一人を選び、その作家が果たした文学史上の役割について、具体的な作品名を挙げながら論ぜよ。

島崎藤村 谷崎潤一郎 川端康成 井伏鱒二 小林多喜二

二 次に挙げる文学史用語から一つを選び、その用語が表す文学史的意義について、具体的な作家名を挙げながら論ぜよ。

硯友社文学 写実主義 余裕派 白樺派 無頼派

C (日本語学専攻)

一 次の中から2つを選び、それぞれ論ぜよ。

- ① 已然形 ② 国際音声字母 (International Phonetic Alphabet) ③ 渡辺実 ④ フィラー (filler) ⑤ れ足すことば

二 日本語の表記体系における「片仮名」について、具体例を示しながら、論ぜよ。

A (日本文学専攻・古典文学)

〈出題意図・解答例〉

日本語・日本文学専攻のアドミSSION・ポリシーに沿って『蜻蛉日記』に関する専門基礎的な知識を問うものである。古典文学において日記文学は紀貫之が、『土佐日記』において自らを女性に仮託し仮名文を用いることで可能となつたものである。仮名文により、紀貫之は日記に私的性格を備え、自己を見つめる自照性の強い日記文学を作り上げたといえるであろう。そして、紀貫之の方法は女性の手による日記文学に引き継がれていくことになる。その初めの作品が『蜻蛉日記』である。『蜻蛉日記』の作者は受領階級の娘として生まれた藤原道綱母である。当時右大臣の三男であつた藤原兼家という身分違いの男性から求婚されて初めは拒んでいたが兼家との和歌の贈答の結果、心が通い合ったものと思ひ結婚し、道長をもうけるが、結婚生活は苦悩に満ちたものであつた。『蜻蛉日記』は上・中・下の巻から成り、兼家の求婚から始まり、二十一年間の結婚生活を回想したものである。当時の一夫多妻の制度のなかで、夫の一途な愛情を求めつつも、裏切られ傷つけられて、やがては道綱の成長だけを頼みとする過程が細やかに描かれる。作品の冒頭で作者は物語の「そらごと」を批判し、自己の体験に基づく真実を描き出そうとする決意を述べている。このように作者は、日記を真実を描くものにとらえており、『蜻蛉日記』は自己の内面を凝視した作品となつている。自己の内面を照らし出し客観化しようとする方法は『源氏物語』の心理描写にも大きな影響を与えた。

B (日本文学専攻・近代文学)

〈出題意図・解答例〉

日本語・日本文学専攻のアドミSSION・ポリシーに沿って日本近代文学史に関する基本的な知識とともに、文学研究に対する問題意識の在り方やテーマ設定の能力などを問う。日本文学の教育・研究を推進できる資質の持ち主であるかを確認する。各作家が果たした文学史的役割について、または各用語が表す文学史的意義について、具体的な作品名・作家名を挙げながら論述する。先行研究について確認するとともに、それらに対する解答者の見解を具体的な根拠を挙げながら述べている。

C (日本語学専攻)

一

〈出題意図・解答例〉

日本語・日本文学専攻のアドミSSION・ポリシーに沿って日本語学に関する文法・音韻・語彙の専門基礎的な知識を問うもので、提示された術語に関する内容を学説上の重要な論点を簡潔に整理して述べるべき設問である。

〈出題意図・解答例〉

日本語・日本文学専攻のアドミッション・ポリシーに沿って日本語学に関する文字・表記の専門基本的な知識を問うもので、表記を規則と要素とを備えた体系（ライティング・システム）と捉えた際に、文字体系としてのカタカナが有する表記体系内での位置およびその他の文字体系（平仮名ないしは漢字）との関係性を、具体的な表記の事例とともに説明すべき設問である。

別府大学大学院文学研究科

史学・文化財学専攻

入試問題

解答／解答例および出題意図

博士前期課程：

- ・日本史（中世史）
- ・日本史（近世史）
 - ・考古学
 - ・民俗学
 - ・文化財保存学
- ・外国語（英語）

博士後期課程：

- ・日本史（近世史）
 - ・考古学

日本中世史

【一】次の史料を読んで、以下の設問に答えなさい。

諸国百姓、苅取田稻之後、其跡蒔麦、号田麦、領主等徴取件麦之所当云々、租税之法、豈可然哉、自今以後、不可取田麦之所当、宜為農民之依怙、存此旨、可令下知備後・備前両国御家人等之状、依仰執達如件、

(1264)
文永元年四月廿六日

(北条氏時)
武蔵守 判

(北条政時)
相模守 判

(長井兼通)
因幡前司殿

問1：全文を読み下しなさい。

問2：本文末尾の「仰せ」とは誰の命令を指しているか、その地位を記しなさい。

問3：この史料は、古文書学において何という様式に分類されるか、記しなさい。

問4：この史料に記される「因幡前司殿」は、どのような地位にいたことが読み取れるか、考えられることを記しなさい。

問5：この史料では、どのようなことが命令されているかを「二毛作」という言葉を用いながら説明しなさい。

問6：備後・備前は、それぞれ現在の何県に当たるか記しなさい。

【二】次の史料 A・B は、同じ戦国大名が発出した分国法の一部抜粋である。

条文 A

一、喧嘩に及輩^①、不論理非、両方共に可行死罪也、将又あひて取懸くるといふとも、令堪忍、剩被疵^③にをいては、事は非儀たりといふとも、当座穩便のはたらき、理運たるべき也、兼又与力の輩、そのしば[※]にをいて疵を蒙り、又は死するとも、不可及沙汰のよし、先年定了、次喧嘩人の成敗、当座その身一人所罪たる上、妻子家内等にかゝるべからず、但しばより落行跡におゐては、妻子其咎かゝるべき歟、雖然死罪迄はあるべからざるか、

条文 B

一、駿・遠両国之輩、或わたくしとして他国より嫁を取、婿に取、娘をつかはす事、自今以後停止之畢、

※ しば：ある事柄の行われた場所・現場の意。

問 1：条文 A について、全文を読み下しなさい。

問 2：この分国法の名称および発出した戦国大名の家名を記しなさい。

問 3：傍線部①、③について、読みをひらがなで記しなさい。

問 4：条文 A・B が出された目的について考えられることを、それぞれ述べなさい。

【三】 次の史料を読んで、以下の設問に答えなさい。

連、以面拜如申入、大友与嶋津干戈之段、不可然存候、所詮、令和睦尤候、大坂落着之条、
来年者出馬、毛利可令追伐候、其刻双方別而粉骨、对天下可為大忠候、被成其御心得、被
仰含伊勢因幡守、可被差下事專一候、恐惶謹言、

八月十二日

信長

近衛殿

問 1 : 全文を読み下しなさい。

問 2 : この時期の大友・島津間の関係について簡単に説明しなさい。

問 3 : この時期の信長をとりまく政治情勢について本文から読み取れる内容を軸に説明し
なさい。

問 4 : 信長は、大友氏と島津氏にどのようなことを期待しているだろうか。史料から読み
取れることを述べなさい。

問 5 : 信長はなぜ、「近衛殿」にこの手紙を送っているのだろうか。考えられることを述べ
なさい。

日本中世史

受験番号	
------	--

【二】

<p>問1</p> <p>(解答例)</p> <p>諸国百姓、田稻を刈り取るの後、其の跡表を蒔ぎ、田表と号し、領主等件の表の所当を徴取すと云々、租税の法、豈然るべけんや、自今以後、田表の所当を取るべからず、宜しく農民の依怙として、此の旨を存じ、備後・備前両国御家人等^に下知せしむべきの状、仰せに依つて執達件の如し、</p> <p style="text-align: center;">文¹永²元³年⁴四月廿六日</p> <p style="text-align: right;">武藏守 判 相模守 判</p> <p style="text-align: center;">因幡前司殿</p> <p>(出題の意図)</p> <p>史学・文化財学専攻のアドミッション・ポリシーに沿って古文書を正確に読み下す力を問う。</p>	<p>問2 鎌倉殿(将軍、宗尊親王)</p> <p>問3 (関東) 御教書</p>	
<p>問4</p> <p>(解答例)</p> <p>備後と備前の御家人に命令を伝達することを命じられていることから、両国内の御家人を統率する(守護のような)立場。</p> <p>(出題の意図)</p> <p>史学・文化財学専攻のアドミッション・ポリシーに沿って、史料から読み取れる人物の地位を考察させる。単なる史料読解に留まらず、受験者の推察力を問う。</p>		
<p>問5</p> <p>(解答例)</p> <p>二毛作で作られた作物のうち、田を刈り取ったあとの表に領主らが課税してはならないことを命じている。</p> <p>(出題の意図)</p> <p>史学・文化財学専攻のアドミッション・ポリシーに沿って、指定された語句をヒントに、史料の大意を把握できているかを問う。</p>		
<p>問6 備後 広島県</p>	<p>備前 岡山県</p>	

【二】

問 1

(解答例)

一つ、喧嘩に及ぶ輩、理非を論ぜず、両方共に死罪に行ふべきなり、将又あひて取り懸くるといふとも、堪忍せしめ、剩え疵を被るにをいては、事は非儀たりといふとも、当座穩便のはたらき、理運たるべき也、兼ねて又与力の輩、そのしばにをいて疵を蒙り、又は死するとも、沙汰におよぶべからずのよし、先年定め了んぬ、次いで喧嘩人の成敗、当座その身一人所罪たる上、妻子家内等にかゝるべからず、但しばより落行跡におゐては、妻子其咎かゝるべき歟、然りといへども死罪迄はあるべからざるか、

(出題の意図)

史学・文化財学専攻のアドミツション・ポリシーに沿って、古文書を正確に読み下す力を問う。

問 2 名称 今川仮名目録	家名 今川家	
問 3 ① ともがら	② はたまた	③ あまつさえ

問 4

(解答例)

A 喧嘩両成敗を定め、私闘を禁じることで国内秩序を保つため。

B 家臣が他国と勝手に婚姻を結ぶのを禁じ、主家への忠誠を確保するため。

(出題の意図)

史学・文化財学専攻のアドミツション・ポリシーに沿って、史料の大意を把握したうえで、各条文の制定目的をそれぞれ考察させる。

【三】

問 1

(解答例)

連々(つらつら)面拝を以って申入る如く、大友と嶋津干戈の段、然るべからずと存じ候、所詮、和睦せしむるは尤もに候、大坂落着の条、来年は出馬し、毛利追伐せしむべく候、其刻双方別して粉骨、天下に對し大忠たるべく候、其御心得を成され、伊勢因幡守に仰せ含められ、差下さるべき事專一に候、恐惶謹言、

八月正十二日

信長

近衛殿

(出題の意図)

史学・文化財学専攻のアドミツション・ポリシーに沿って、古文書を正確に読み下す力を問う。

【三】 続き

問 2

(解答例)

この時期、大友氏と島津氏は日向国の伊東氏の処遇をきっかけに深刻な対立関係にあった。特に天正六年（一五七八年）の耳川の戦いで大友軍が島津軍に大敗し、以後島津氏が軍事的優位に立っていた。

(出題の意図)

史学・文化財学専攻のアドミツション・ポリシーに沿って、史料本文の記載内容への把握に加え、歴史的背景についての知識を問う。

問 3

(解答例)

この時期信長は、長年争っていた石山本願寺と和睦を成立させ、次に中国地方の毛利氏討伐に着手しようとしていた。

(出題の意図)

史学・文化財学専攻のアドミツション・ポリシーに沿って、史料の記載内容を正確に把握できているかを問う。

問 4

(解答例)

信長は大友氏と島津氏に和睦して自分（信長）の毛利攻めに協力することを望んでいる。

(出題の意図)

史学・文化財学専攻のアドミツション・ポリシーに沿って、史料の記載内容を正確に把握できているかを問う。

問 5

(解答例)

近衛前久（近衛殿）は、公家の中でも島津氏と縁が深く、そもそも摂関家領島津荘の領主で、島津氏はその荘官という関係にあり、戦国期にも前久と島津義久は親交があった。実際、前久は天正三年に一時薩摩へ下向し長期滞在している。このため信長は、中央と島津氏を繋ぐ仲介者として前久を頼り、大友・島津間の調停を託したと考えられる。

(出題の意図)

史学・文化財学専攻のアドミツション・ポリシーに沿って、史料本文の記載内容への把握に加え、歴史的背景についての知識を問う。

日本史 (近世)

【一】 次の史料を読み、つづく問いに答えよ。

〔史料 A〕

- 文武弓馬ノ道、①専ラ②相嗜ムベキ事。
- ③群飲佚遊ヲ制スベキ事。
- 令条ニ載スル所ノ敵制④殊ニ重シ、好色ニ⑤耽リ、⑥博奕ヲ業トスルハ、是レ亡国ノ⑦基也。
- ⑧法度ヲ背ク⑨輩、国々ニ隠シ置クベカラザル事。
- 諸国ノ居城⑩修補ヲ為スト⑪雖モ、必ず⑫言上スベシ。⑬況ンヤ新儀ノ構宮堅ク⑭停止令ムル事。
- 隣国ニ於テ、新儀ヲ企テ⑮徒党ヲ結ブ者之有ラバ、早ク言上致スベキ事。
- 私ニ⑯婚姻ヲ⑰締アベカラザル事。
- 諸国諸侍、⑱儉約ヲ用ヒラルベキ事。
- ⑲国主、政務ノ器用ヲ⑳撰アベキ事。
- 右、a 此ノ旨ヲ相守ルベキ者也。
- b 慶長廿年卯七月日

- 問 1 傍線部①、②の読みをひらがなで記しなさい。
- 問 2 傍線部 a の文の読みを、すべてひらがなで記しなさい。
- 問 3 傍線部 b の「慶長廿年」を西暦で記しなさい。
- 問 4 「諸国ノ居城修補ヲ為スト雖モ、必ず言上スベシ。況ンヤ新儀ノ構宮堅ク停止令ムル事。」の条文に違反して、1619年に所領を没収された大名の名前とその居城の所在地を漢字で記しなさい。
- 問 5 「私ニ婚姻ヲ締アベカラザル事。」という条文が出された理由を二〇字以内で記しなさい。
- 問 6 徳川幕府が武家諸法度を出した理由を二〇〇字以内で記しなさい。

【二】 次の史料を読み、つづく問いに答えよ。

〔史料 B〕

a 今般、私共村内若もの共、心得違にて毒ヲ流シ魚ヲ殺候、乍御聞、右之始末御糺ヲ請、一言申分無御座候、b 依之、隠居五右衛門殿并七左衛門殿・勘左衛門殿相頼、御託言仕候処、御勘弁被下難有仕合ニ奉存候、全體乙父沢川之義者、前々より止川ニ致置、御出役様御旅宿之節、御人用之魚取来り候所此度村内若もの共、①心得違御用捨被下候上ハ、②向後之義ハ村内申合置、③猥りニあみ入不申様可仕候、若もの義ハ④急度為相慎、c 右様之義ハ不及申、猥りケ間鋪義仕間鋪候、依之、村内一同立合連印一札差出シ申所、⑤仍而如件

- 問 1 傍線 a について、読み下し文にしなさい。
- 問 2 傍線 b について、読み下し文にしなさい。
- 問 3 傍線 c について、読み下し文にしなさい。

一 / 一

- 問4 傍線①の「心得違」とは具体的に何を指すのか二〇字以内で説明しなさい。
- 問5 傍線②の「向後」について、その読みをひらがなで記しなさい。
- 問6 傍線③の「猥り」について、その読みをひらがなで記しなさい。
- 問7 傍線④の「急度」について、その読みをひらがなで記しなさい。
- 問8 傍線⑤の「仍而如件」について、その読みをひらがなで記しなさい。
- 問9 「史料B」の内容について、二〇〇字以内で要約しなさい。

【三】次の史料を読み、つづく問いに答えよ。

〔史料C〕

- 一 千曲川橋、先年より岩尾村・落合村・大和田村、^a右三ヶ村二而橋掛ケ来り候処、近年出水多ク、橋場不相定難義二付、三ヶ村相談之上、秋彼岸より来春彼岸迄橋掛ケ置、夫より渡舟二仕度候、^b乍然、掛置候橋落橋迄者、其俣通用仕、落橋仕候ハ、渡舟二致度、三ヶ村二而相談之上、江戸御奉行様へ①出訴仕度相談相極申、左二割合・使寄②取極申候、
- 一 ^c此節出金拾両、三ヶ村橋高割二而割合可申候、江戸遣之義者、一日甚人二付、銀五匁宛之禮を以勘定可仕候、上下堅尻両人二而管足相立可申候、臨時入用之義者腰掛ケ入用・御支配入用、其外臨事③入用有之候ハ、鼻国ノ節三ヶ村相談之上、④割合可仕候、以上

- 問1 傍線aについて、読み下し文にしなさい。
- 問2 傍線bについて、読み下し文にしなさい。
- 問3 傍線cについて、読み下し文にしなさい。
- 問4 傍線①の「出訴」について、その読みをひらがなで記しなさい。
- 問5 傍線②の「取極」について、その読みをひらがなで記しなさい。
- 問6 傍線③の「入用」について、その読みをひらがなで記しなさい。
- 問7 傍線④の「割合」について、その読みをひらがなで記しなさい。

【四】関ヶ原の戦いについて、その原因・経過・結果・影響などについて、三〇〇字以内で記述しなさい。

【五】次の歴史用語などについて、それぞれ六〇字以内で解説せよ。

- A 井原西鶴
- B 田沼時代
- C 東海道
- D 天領
- E 京都所司代

解答用紙

博士前期課程（大学院歴史学専攻）

日本史（近世）

受験番号	
------	--

【一】

問 1

①	もつばら	⑪	いえども
②	あいたしなむ	⑫	うんじよう
③	ぐんいんいつゆう	⑬	いわんや
④	いとに	⑭	おもしろ
⑤	あけり	⑮	ふたつ
⑥	はくさま	⑯	いんらん
⑦	もとい	⑰	むすび
⑧	はつこ	⑱	けんぎく
⑨	ともがら	⑲	いんじゆ
⑩	しゆらほ	⑳	えんぎ

問 2	このむねをあいまあるべきものなり
-----	------------------

問 3	一六一五年
-----	-------

問 4	大名の 名前	福島正則	居 城 地	広島城（広島）
-----	--------	------	-------	---------

問 5	大名同士の結婚は政治的同盟関係になるから			
-----	----------------------	--	--	--

問 6	<p>武家諸法度は、江戸幕府が全国の諸大名に対して出した大名統制の基本法令である。元和元年（一六一五）、大坂夏の陣が終わり、豊臣家が滅亡すると、徳川家に対する反対勢力は一掃された。その結果、「黒衣の宰相」と言われた家康の側近である金地院崇伝が起草して、元和元年七月、二代将軍・徳川秀忠の名で武家諸法度（元和元年令）を制定した。以後、武家諸法度は将軍の代替わりごとに発布された。</p>			
-----	--	--	--	--

【二】

問 1	今般、私ども村内若者ども、心得違ひにて毒を流し魚を殺し候			
-----	------------------------------	--	--	--

問 2	これにより、隠居五右衛門殿ならびに七左衛門殿・勘左衛門殿相頼み、お詫言仕り候ところ、ご勘弁くだされありがたき仕合に存じ奉り候			
-----	--	--	--	--

問 3	右ようの義は申すに及ばず、猥りがましき義仕るまじく候。これにより、村内一同立ち合い連印一札差し出し申すところ、			
-----	---	--	--	--

問 4	乙父沢川に毒薬を流して魚を殺したこと			
-----	--------------------	--	--	--

問 5	ころこ			
-----	-----	--	--	--

問 6	みだり			
-----	-----	--	--	--

問 7	きつと			
-----	-----	--	--	--

問 8	よつてくだんのごとし
-----	------------

問 9	村の若者たちが心得違いに毒薬を乙父沢川に流したが、村役人からから糾明を受けて、村の長老たちに仲介に入ってもらい、謝罪をした。その結果、今後は村内でよく申し合わせて、勝手に漁をしないようにして、若者たちには反省させるようにした。
-----	---

【三】

問 1	右三か村にて橋掛け来たり候ところ、近年出水多く、橋場相定まらず難義につき、三か村相談のうえ、秋彼岸より来る春彼岸まで橋掛け置き、
-----	--

問 2	然しながら、掛け置き候橋落橋まではそのまま通用仕り、落橋仕り候わば渡舟にいたしたく、三か村にて相談のうえ、
-----	---

問 3	この筋出金十両、三か村橋高割にて割り合い申すべく候、江戸遣いの義は、一日一人につき銀五匁ずつの積りをもつて勘定仕るべく候、
-----	---

問 4	しゅつそ
-----	------

問 5	とりきぬ
-----	------

問 6	にゆるよう
-----	-------

問 7	わりあい
-----	------

【四】

天下人の豊臣秀吉が慶長三年（一五九八）に死去すると、日本国内最大の大名である徳川家康は五大老の筆頭として政治的実力を着々とたくわえていった。豊臣秀吉の後継者である豊臣秀頼はまだ幼少であったため、家康の動向を警戒した、五奉行の一人であった石田三成は、家康に反対する諸大名にはたらかかけて挙兵し、慶長五年（一六〇〇）、美濃国の関ヶ原で、家康方の軍勢と戦ったがたった一日で敗北した。その結果、徳川家康の覇権が確立して、その後、家康は慶長八年（一六〇三）に征夷大將軍に任ぜられて江戸幕府を開いた。

【五】

A

江戸時代前期の浮世草子作者、俳人。『日本永代蔵』、『世間胸算用』、『好色一代男』など元禄文学を代表する作品を出した。

B

一〇代将軍・徳川家治の側用人から出世して老中になった田沼意次が幕府の政治の実権を握った時代のことである。

C

江戸日本橋を起点とする五街道の一つである。江戸から京都の間に五十三の宿駅を置き、東海道五十三次と称した。

D

江戸幕府の直轄領の俗称である。江戸幕府の経済的基盤であり、全国に分布しており、約四〇〇万石であった。

E

江戸幕府が京都に置き、朝廷の監察や西国大名の監視をおこなった。京都所司代を経てから幕府の老中になるケースも多かった。

問題1 下記の事柄について述べなさい。[2問選択・各問600字前後]

- A 縄文時代の装身具について
- B 弥生時代における磨製石器の材料について
- C 前方後円墳体制について
- D 古代寺院における伽藍配置について
- E 中世における喫茶と陶磁器の関係について
- F 織豊系城郭以降の石垣構築の変遷について
- G 水中考古学の現状と課題について

問題2 下記の研究者は、考古学史上でどのような役割をはたしたか、またその主要な業績などについて述べなさい。[2問選択・各問200字前後]

- A トムセン
- B 濱田耕作
- C 坪井正五郎
- D 齊藤忠
- E 中村浩
- F 藤岡了一
- G 亀井明德

問題3 下記の遺物・遺跡について述べなさい。[3問選択・各問200字前後]

- A 角錐状石器
- B 安国寺式土器
- C 富雄丸山古墳
- D 飛鳥池工房遺跡
- E 長屋王邸跡
- F 大分市万寿寺跡
- G 新安沈船
- H 瀬戸窯跡群

考古学

問題1

〈出題意図・解答例〉

史学・文化財学専攻のアドミッション・ポリシーに沿って、大学院で考古学を学んでいく上で必要な考古学における先行研究に関する知識と理解を確認するための問題である。

- A 石製品・貝製品・骨製品などの材質、耳飾り・首飾り・腕輪などの種類、想定される用途、地域性について触れていること。
- B 石材の種類及び九州であれば立岩・今山などの石材の産地に触れていること。
- C 提唱者である都出比呂志の名及びその理論の内容及び国家形成過程について触れていること。
- D 古代寺院に認められる代表的な法隆寺式などの伽藍配置を挙げられていること。
- E 臨済宗などの鎌倉新仏教と喫茶の文化の伝播と天目茶碗などの茶器の普及について触れていること。
- F 野面積みなど石垣の種類を複数挙げ、隅角部の算木積みの時代的変遷について説明していること。
- G 長崎県松浦市における元寇船の発見や海外における調査例、日本は海流が早く調査が難しい点に触れていること。

問題2

〈出題意図・解答例〉

史学・文化財学専攻のアドミッション・ポリシーに沿って、大学院で学んでいく上で必要な考古学における先行研究に関する知識と理解を確認するための問題である

- A デンマークの考古学者であること、3次期区分法に触れていること。
- B 留学し、日本に近代的な考古学を紹介した業績や著書『通論考古学』に触れていること。
- C 人類学者、人類学会（東京人類学会）の創設者であること、彼の唱えたコロボックル説などに触れておくこと。
- D 研究は多岐にわたるが、主に古墳時代の研究者。『日本装飾古墳の研究』などの著作に触れていること。また、『日本考古学概論』・『日本考古学用語辞典』・『日本考古学史』などを著し、考古学の方法論・考古学史をまとめた。
- E 「陶邑窯跡群」出土須恵器の編年を確立した研究者。『和泉陶邑窯の歴史的研究』に触れておくこと。また、いわゆる「中村編年」の説明すること。
- F 元大阪芸術大学の東洋陶磁の研究者。特に中国、日本の彩釉陶磁を中心に研究を進めた。『世界陶磁全集』の編纂に参加。
- G 貿易陶磁器研究者。九州歴史資料館を経て、専修大学に着任。当初は、九州の博多や鴻臚館・大宰府出土の貿易陶磁器研究、後に元青花に関する研究をおこなった。

問題3

〈出題意図・解答例〉

史学・文化財学専攻のアドミッション・ポリシーに沿って、大学院で学んでいく上で必要な考古学における各時代の示準遺跡に関する知識と理解及び最新の発掘調査成果に関する知識を確認するための問題である

- A 角錐状石器の形態を述べ、帰属する年代、学史的に別府大学の橘昌信教授の提唱した三稜尖頭器などについて述べるなど用途論などに触れること。
- B 帰属する年代、弥生時代のいつごろのものか、土器の複合口縁などの形態的・紋様の特徴について触れられていること。
- C 遺跡の帰属する次期、遺跡の位置、遺構の特徴、出土品について述べられていること。
- D 遺跡の帰属する次期、遺跡の位置、遺構の特徴、出土品について述べられていること。
- E 遺跡の帰属する次期、遺跡の位置、遺構の特徴、出土品について述べられていること。
- F 遺跡の帰属する次期、遺跡の位置、遺構の特徴、出土品について述べられていること。
- G 遺跡の帰属する次期、遺跡の位置、遺構の特徴、出土品について述べられていること。
- H 遺跡の帰属する次期、遺跡の位置、遺構の特徴、出土品について述べられていること。

民 俗 学

【一】 下記の事項について述べよ。 (2 問選択・各問 800 字以内)

- 1 日本人の他界観について
- 2 民俗の記録化について
- 3 妖怪、変化、幽霊についてその特性と相違点
- 4 日本人における宗教観の変遷について
- 5 怨霊と御霊信仰との関係とその特性について
- 6 祖霊信仰の特性について
- 7 民具学の調査研究方法について
- 8 重出立証法の得失について

【二】 下記の研究者が、どのような足跡を残したか、簡潔に述べよ。

(1 問選択・400 字以内)

- 1 柳田国男
- 2 折口信夫
- 3 南方熊楠
- 4 瀬川清子
- 5 和歌森太郎
- 6 宮本常一

【三】 あなたが大学院でどのようなテーマと手段で民俗学を研究したいかを簡潔に述べよ。

(600 字以内)

民俗学

問題1

〈出題意図・解答例〉

史学・文化財学専攻のアドミッション・ポリシーに沿って、大学院で学んでいく上で必要な知識及びテクニカルタームの理解を確認するためのものである。

1. 日本人は海の彼方と山中に現世に対するもう一つ別の世界があると想定している。「あの世」などと呼ばれ、海の方にある他界を海上他界、山中にある他界を山中他界とした。山中他界は山岳信仰にもとづき、山中を聖地視し、霊山信仰を基礎となった。いずれの場所も死者の霊が集まる場所とし、仏教の浄土観とも結びつき、発展したといわれている。また、これらの他界と現世は近い距離にあり、死者の往来も可能な場所として受けとめられている。
2. 現世に対する別の世界の概念である。神道では「高天原」「根の国」、仏教における「極楽」「地獄」、キリスト教における「天国」「煉獄」「地獄」などがある。また、他界は3つの特徴があるといわれている。第1に他界は、現世とは異質のしばしば逆の性格をもっているとされている。不死の国、闇の国などである。第2に他界を構成する要素の多くが、現世の構成要素と同じものとされている。山川草木があるというような考えである。そして第3に、現世と他界は相互に関連しあって、不即不離の関係にあると考えられている。
3. 妖怪は、異様な姿と不思議な力をもった超自然的な存在である。妖怪は共通のイメージがあるが、口頭伝承のみならず、各種の文芸や絵画、芸能の影響を受けて現在の形になったといわれている。変化は、何かが化けて姿を変えたものである。動物や道具が年月を経て成るものが多い。妖怪のことを「化け物」というような表現もあるように妖怪と変化も同じ意味で使われることもある。幽霊は人間であったものが人間以外のかたちをとって出現したものだといわれている。また、妖怪は黄昏時に出現し、幽霊は丑三つ時に出現する。妖怪は場所につき、幽霊は人につくという考えもある。
4. 日本人の宗教観は、日本古来の自然崇拜やシャーマニズム、道教、儒教、仏教などの宗教者によるもの、そして、それらが彼らの手を離れて民間に残留し集合し生活習慣として行なわれるものが重なり合って成立している。大陸から分かれて、人が日本に住むようになったころには、日本独自の自然宗教が発生していたと考えられている。そこに大陸から道教・仏教が伝来し、日本の宗教の基礎がつくられられた。仏教と自然宗教が結びつくことにより、山岳信仰が広がる。そして、都市の発達にともない疫病や大規模災害が起きたことと、陰陽道の発展にともない御霊信仰が生まれた。相次ぐ戦乱を経て、末法思想が広がり、葬送儀礼が発達する。中世期に惣村が生まれたことにより民衆の祭祀組織が本格的に誕生し、現在のお祭りを支える組織の基礎が出来上がっていく。江戸時代に入ると、寺檀制度が生まれ、神社においては氏神信仰が整えられる。明治になると、氏神信仰をベースに国家神道が成立する。太平洋戦争終結まで、その制度は維持されてきた。これらが重層的に重なり合い、現在の宗教観が出来たとされている。
5. 怨霊は、人間の靈魂のうちで、特に怨念をもち祟りをする人霊をさし、その祟りが祭

祀などによって鎮められたものが御霊である。菅原道真、崇徳上皇などがその代表的なものとして知られている。平安時代に定着し、その後、民間信仰として広がっていったといわれている。御霊信仰の広がりや深い関りがある祭りが京都ではじまった祇園祭であり、西日本を中心に広く分布している。一方、中部を中心に広がっているものが、津島ではじまった天王祭りである。これらの祭りは夏に行なわれ、怨霊による災いとされた疫病の流行や水害の発生を防ぐことを目的とされた。

6. 死亡した父母や祖父母をはじめとする先祖たちの魂や霊を子孫が、特定の場を設けて供物をささげて祀る信仰である。先祖たちはあまり遠くない所において、子孫を見守り、影響を与えると考えられている。また、毎年、時を定めて子孫の家を訪れてくる点も特徴とされている。一つがお盆であり、もう一つは正月であるとされている。家長が中心となり、祀り続けることが重要とされ、そのため、家の永続が希求される。祀られる先祖の霊は、死後しばらくは個別の存在として認識されているが、年数を経ると先祖という集合体として受けとめられるようになり、個別の人格が失われていくのも特徴の一つである。
7. 民具は、民衆が日常生活の必要から製作・使用してきた伝承的な器具・造型物の総称である。民具研究には、民具の形態や機能、変遷、そして発達などを考えるものがある。出土品や絵巻などに描かれた資料との民具の比較研究、民具に書かれた記銘や彫刻からの年代研究、聞き取り調査による民具の使用法研究、民具の収集・分類による系統分類なども行なわれている。
8. 民俗学で行なわれてきた比較研究法の一つである。ある民俗について全国規模や特定な規模で資料を集め、分類し、類型間の相違から、その民俗の変遷過程を明らかにしようとするものである。柳田國男が提案した分析方法である。近年では、全国での比較研究よりも地域社会や個別事例の詳細分析に重点をおいた研究の方が良いという見解もあり、両者の良いところを取り入れた研究が進められている。

問題2

〈出題意図・解答例〉

史学・文化財学専攻のアドミッション・ポリシーに沿って、大学院で学んでいく上で必要な民俗学における先行研究に関する知識と理解を確認するためのものである。

1. 民俗学の祖とされる。1910年代は『遠野物語』に代表される山人の研究からはじまり、少数派に属する様々な生業の人々を研究した。雑誌『郷土研究』を通して民俗学研究の組織化をすすめ、研究体制の基本をつくった。1920年後半に入ると、現実に関心を迫られている問題に解答を出す学問として民俗学を位置づけようとした。また、この時期には民俗学の方法論を確立していく試みを行なっている。1940年代以降は、日本人としての自己認識を促すための研究を行ない、日本人の原点を求める研究に力を費やした。
2. 柳田國男のもと、民俗学を学んだ研究者の1人である。万葉集の研究者としても知られ、古代日本に関心を持つ、国文学者としても位置付けられることもある。釈道空と号した歌人でもあった。これらの知識を活かして、「マレビト」や「妣が国」といっ

た独自の概念を生み出していった。また、民俗芸能研究や沖縄研究を早い時期から行ない、新しい民俗分野の開拓も行なった。

3. 民俗学、博物学、そして粘菌の研究者としても知られている。また、1920年代に起きた神社合祀の動きに対して、鎮守の森が減少することを恐れ、自然保護の観点から反対運動を故郷の和歌山を中心に行なったことでも知られている。彼の民俗学の研究成果は『十二支考』や『南方随筆』などで読むことができる。南方民俗学ともいわれ、比較民俗、比較文化論的視点から日本文化を研究し、最終的に人類文化の普遍性を解明しようとしていた。
4. 女性をめぐる労働・衣食・婚姻・信仰などの民俗を積極的に取り扱った女性民俗研究のパイオニアである。女性の労働として海に潜って海産物を採取する人々の生活をまとめた『海女』や、娘組と若者組との関りを書いた『若者と娘をめぐる民俗』、女性の出産とケガレの関係性を記した『女の民俗誌』などが著作として知られている。柳田國男の指導のもとはじめた、女性による民俗学の研究会の取りまとめ役を長年続けた。
5. 日本の財界人で、日本銀行総裁、大蔵大臣を務めた。祖父は渋沢栄一である。若き頃、柳田國男に出会い、民俗学に関心を持ち、自らの財力を背景に研究者の育成に力を注いだ。私設博物館であるアチックミュージアムをつくり、柳田國男以来の民俗学研究を補完する形で、漁業史・民具学の研究などの分野に力を入れていった。宮本常一をはじめとする多くの民俗学者に与えた影響は大きい。
6. 民俗学の実践者として、庶民生活の改善と研究に業績を残した。離島振興や観光振興、そして地域教育などに深い関心を持った。民具研究を本格的にはじめた1人としても知られている。その背景にはフィールドワークを重要視し、渋沢敬三らの援助によって、日本各地を実際に見てきた経験が活かされている。そのため、「旅する巨人」ともいわれている。代表作である『忘れられた日本人』は今も多くの人に読まれている。

問題3

〈出題意図〉

史学・文化財学専攻のアドミッション・ポリシーに沿って、大学院で民俗学を学んでいく上で、具体的な問題意識をもっているのか、また、その取り組み方に関してどのような考えを持っているのか問うためのものである。

文化財保存学試験問題

以下の【問題Ⅰ】～【問題Ⅲ】の中から、2つ選んで答えよ。

【問題Ⅰ】 我が国における文化財保護の歴史について、以下のキーワードを用いて時系列で述べよ。(600字程度)

＜キーワード＞

法隆寺金堂の炎上 古器旧物保存方 国宝保存法 古社寺保存法
神仏分離令 文化財保護法

【問題Ⅱ】 文化財保護法では、文化財の6つの領域に分類し、これらの他に「選定保存技術」、「埋蔵文化財」の領域を設けている。文化財保護法に定められた文化財の6つの領域について概要を記述し、具体的にどのようなものがあるかを領域ごとに述べよ。(600字程度)

【問題Ⅲ】 以下の事柄について説明せよ。(各200～400字程度)

- ① 日本の世界遺産について1つの具体的事例を挙げ、その選定の根拠と今後の課題について
- ② 文化財を保存修復するにあたり、重要な理念(考え方)とは何か

文化財保存学

問題1

〈出題意図・解答例〉

史学・文化財学科のアドミッション・ポリシーに沿って、大学院で文化財保存学を学んでいく上で、必要な文化財保存学における先行研究に関する知識と理解を確認するための問題である。

- A 文化財保護における歴史的な事件の詳細について理解していることを論述すべき設問である。
- B キーワードの事件および法律などが文化財保護に及ぼした影響について理解していることを論述すべき設問である。

問題2

〈出題意図・解答例〉

史学・文化財学科のアドミッション・ポリシーに沿って、大学院で文化財保存学を学んでいく上で、必要な文化財保存学における先行研究に関する知識と理解を確認するための問題である。

- A 文化財における世界遺産の定義について理解していることを論述すべき設問である。
- B 日本における世界遺産の種類および選定基準について理解していることを論述すべき設問である。

問題3

〈出題意図・解答例〉

史学・文化財学科のアドミッション・ポリシーに沿って、大学院で文化財保存学を学んでいく上で、必要な文化財保存学における先行研究に関する知識と理解を確認するための問題である。

- A 文化財の保存修復における理念および意味について理解していることを論述すべき設問である。
- B 文化財の保存修復における注意事項について理解していることを論述すべき設問である。

問 次の英文を和訳せよ

The growth of *jōkamachi*, or towns-below-the-castle, where the warrior vassals, merchants, and artisans gathered, fostered the growth of markets and commercial organizations that were taxable. However, the basis of daimyo power was still control over their retainers and over land. Since the bulk of the population remained rice farmers, the new rulers needed to control rice-producing river valleys and coastal plains. They built protective forts on higher ground where the natural defenses of steep mountains dominated the flat, productive valleys that no local lord could afford to lose.

With the decline of Ashikaga rule, two daimyo families, the Hosokawa and the Ōuchi, took over the official China trade from the *bakufu*. These families were geographically well placed to undertake such a commercial venture. Their territorial base was in the area of the Inland Sea, which had been the scene of considerable maritime trade, foreign as well as domestic, from ancient times. The Hosokawa, who dominated the eastern end of the Inland Sea, were supported by the merchants of Sakai; the Ōuchi from territories farther west, operated through the northern Kyushu port of Hakata. Both Sakai and Hakata were old established trading ports and during the Muromachi period their citizens enjoyed a high degree of political independence. Rivalry between men from these two “free cities” led to fighting in the Chinese port of Ningpo in 1523, but it was the Ōuchi who controlled the official China trade in the ten years before it ceased in 1549.

These voyages to China (there were eleven between 1433 and 1549) stimulated economic activity in Japan, especially in the towns of Sakai and Hakata, but they were by no means so vital to Japan as foreign trade is today. Swords, copper ore, sulfur and fine woods (the last reexported from southeast Asia) were the most important Japanese exports. Copper coins were a major import from China, with silks, porcelain, and books. In the days before the Japanese minted their own coins satisfactorily, Chinese coins were commonly used. The payment of salaries and taxes, the sale of produce and land were transacted either in coin or in terms of coin. Availability of currency greatly facilitated the use of credit, which, in turn, stimulated economic activity.

外国語（英語）

〈模範解答〉

城下町、すなわち家臣の侍や商人、手工業者が集まる城下の町の発展は、課税が可能な市場や商業組織の成長を促した。しかしながら、大名の権力の基盤は依然として、家臣や土地に対する支配にあった。人口の大部分は稲作農民であったため、新たな支配者たちは稲作がおこなわれる河川の流域や海岸の平野部を支配する必要があった。彼らは高地に要塞を建設したが、地方の領主が失うわけにはいかなかった、生産力の高い平地の流域を、急峻な天然の要害が支配したのであった。

足利氏の支配の衰退にともない、細川氏と大内氏というふたつの大名が幕府から中国との公的な貿易を引き継いだ。これらの家系は、そのような商的事業を引き受けるのに、地理的に有利なところに位置していた。彼らの領土的基盤は瀬戸内海地域にあり、そこは古代以来、国内・国外ともに活発な海上貿易の舞台となっていた。細川氏は瀬戸内海の東端を支配し、堺の商人の支持を得ていた；さらに西方の領土を支配していた大内氏は、北部九州の博多港をつうじて活動していた。堺も博多もともに古くから商業港として知られており、室町時代をつうじてその市民は高度な政治的独立性を享受していた。これらふたつの「自由都市」から来た人々のあいだの対立関係は、1523年、中国の寧波港における抗争に発展したが、その戦いが1549年に収束するまでの10年間、公的な対中国貿易を統制していたのは大内氏であった。

こうした中国への渡航（1433年から1449年の間に11回おこなわれた）は、日本、とりわけ堺と博多の町における経済活動を活性化させたが、しかし、日本にとってそれは、今日における対外貿易のように不可欠なものではなかった。剣、銅鋳石、硫黄、高級木材（これは東南アジアから再輸出された）といったものが、日本側の最も重要な輸出品であった。銅銭は、絹織物や磁器、書籍とともに、中国からの主要な輸入品であった。日本が独自に十分な量の銭貨を鑄造する以前の時代には、中国の銭貨が一般に用いられていた。給料や税の支払い、生産物や土地の売買は、貨幣によって、あるいは貨幣価値に換算しておこなわれた。通貨の利用は信用取引を容易にし、それはさらに経済活動を活性化させた。

【I】 次の史料文をすべて読み下し文にせよ。そして、すべて現代語訳せよ。

定 安土山下町中

- 一 当所中為樂市被仰付之上者、諸座・諸役・諸公事等悉免許事
 - 一 往還之商人、上海道相留之、上下共至当町可寄宿、但荷物以下之付下者、荷主次第之事
 - 一 普請免除之事、但、御陣・御在京等御留守難去時者、可致合力事
 - 一 伝馬免許之事
 - 一 火事之儀、於付火者、其亭主不可懸科、至自火者遂糺明、其身可追放、但、依事之跡可有輕重事
 - 一 咎人之儀、借屋并雖為同家、亭主不知其仔細、不及口入者、亭主不可有其科、至犯過之輩者、遂糺明可処罪過事
 - 一 諸色買物之儀、縱雖為盜物、買主不知之者、不可有罪科、次彼盜賊人於引付者、任古法贓物可返付之事
 - 一 分國中徳政雖行之、当所中免除之事
 - 一 他国并他所之族、罷越当所仁有付候者、從先々居住之者同前、雖為誰々家來、不可有異議、若号給人、臨時課役停止之事
 - 一 喧嘩・口論并国賈・所質・押買・押売・宿之押借以下一切停止事
 - 一 至町中譴責使・同打入之儀、福富平左衛門尉・木村次郎左衛門尉兩人仁相届之、糺明之上可申付事
 - 一 於町並居住之輩者、雖為奉公人并諸職人、家並役免除事、付、被仰付、以御扶持居住之輩并被召仕諸職人等各別事
 - 一 博勞の儀、國中馬売買、悉於当所、可仕之事
- 右条々、若有違背之族者、速可被処敵科者也

天正五年六月日

(朱印)

【II】 次の史料文をすべて現代語訳せよ。そして、この史料の日本史上における歴史的意義を説明せよ。

条々

- 一 諸国百姓、刀、わきさし、弓、やり、てつはう、其外武具の類所持候事、堅御停止候、其子細ハ、不入道具を相たくハへ、年貢・所当を難致せしめ、自然、一揆を企、給人に対し非儀動をなす族、勿論可有御成敗、然者其所の田畠令不作、知行ついゑになり候間、其国主、給人、代官として、右武具悉取集、可致進上事
- 一 右とりをかるへき刀、脇指ついゑにさせらるへき儀にあらず、今度大仏御建立の釘かすかいに可被仰付、然者今生の儀者不及申、来世までも百姓たすかる儀に候事
- 一 百姓ハ農具さへ持、耕作専に仕候へは子々孫々まで長久に候、百姓御あはれミを以て如此被仰出候、誠国土安全万民快樂之基也、異国にてハ唐堯のそのかミ天下を鎮撫、宝剑利刀を農器用となり、此

旨をまもり各々其趣を存知、百姓ハ農桑を精に可入事

右道具急度取集、可致進上候

不可油断候也

天正十六年七月八日

(朱印)

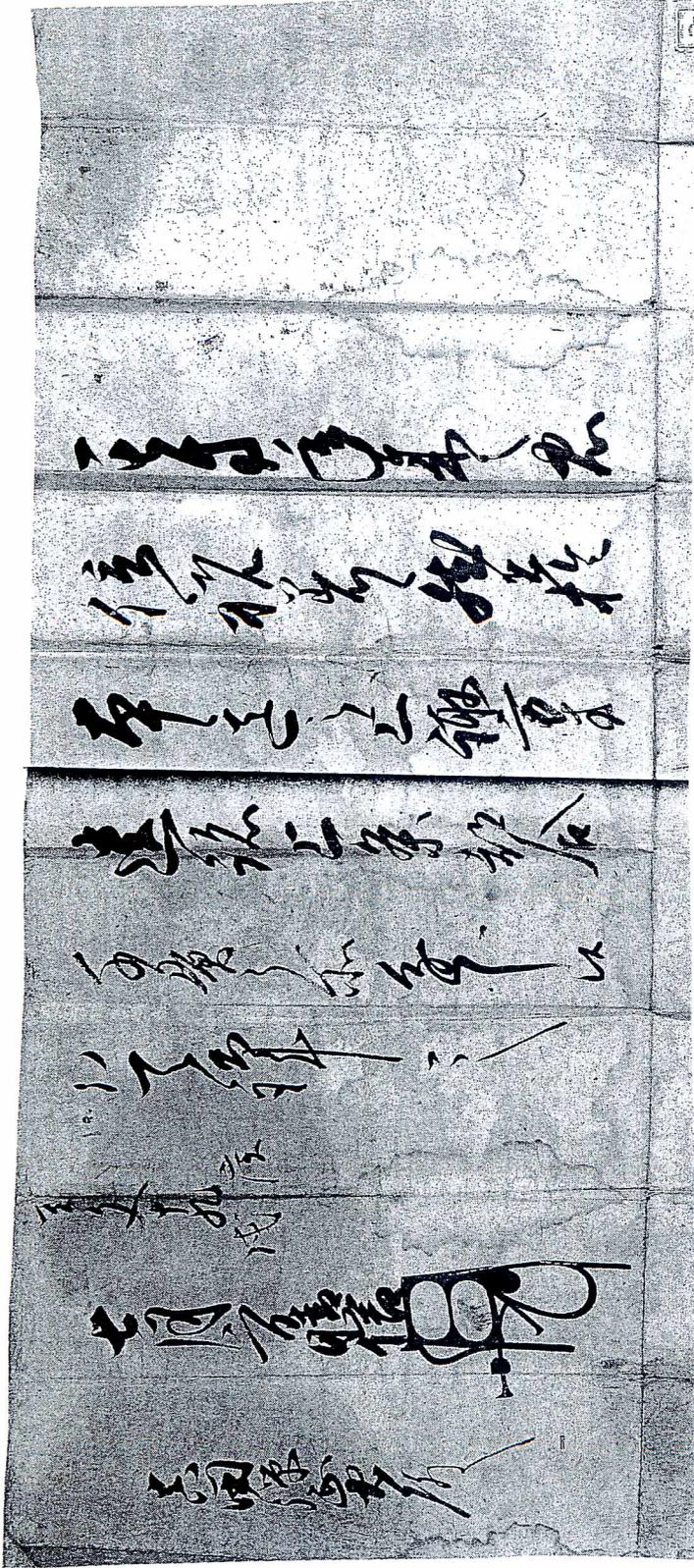
【Ⅲ】 次の史料文をすべて読み下し文にせよ。

善札見^ひ辨
 太刀一腰馬一疋
 并縮^ひ平端^ひ向^ひ願
 妻^ひ何^ひ物^ひ也^ひ祝
 上^ひ書^ひ後^ひ目^ひ出^ひ石^ひ炭^ひ
 二^ひ好^ひ書^ひ之^ひ以^ひ書^ひ起^ひ
 一^ひ紙^ひ書^ひ教^ひ初^ひ口^ひ福
 後
 之^ひ有^ひ 陰^ひ新^ひ
 孫^ひ信^ひ長^ひ守^ひ家^ひ及
 三^ひ田^ひ友^ひ三^ひ傳^ひ及^ひ

大阪城天守閣所蔵

出典：渡邊大門編『戦国古文書入門』（東京堂出版、2019年）

【IV】次の史料文をすべて読み下し文にせよ。



【Ⅰ】読み下し文

定 安土山下町中

- 一 当所中樂市として仰せ付けらるるの上は、諸座・諸役・諸公事など、ことごとく免許のこと
 - 一 往還の商人、上海道これを相留め、上下とも当町に至り寄宿すべし、ただし、荷物以下の付け下ろしは、荷主次第のこと
 - 一 普請免除の事、ただし、御陣・御在京など御留守去りがたき時は、合力いたすべきこと
 - 一 伝馬免許のこと
 - 一 火事の儀、付け火においては、その亭主に科を懸くべからず、自火に至らば糺明をとげ、その身を追放すべし、ただし、事の躰により軽重あるべきこと
 - 一 咎人の儀、借屋ならびに同家たるといえども、亭主その仔細を知らず、口入に及ばざれば、亭主その科あるべからず、犯過に至るの輩は、糺明をとげ、罪過に処すべきこと
 - 一 諸色買物の儀、たとい盗物たるといえども、買主これを知らざれば、罪科あるべからず、ついでかの盗賊人引き付けるにおいては、古法に任せ贓物これを返付すべきこと
 - 一 分国中、徳政これをおこなうといえども、当所中、免除のこと
 - 一 他国ならびに他所之族、罷り越し当所に有り付き候はば、先々より居住の者同前、誰々家来たるといえども、異議あるべからず、もし給人と号し、臨時の課役停止のこと
 - 一 喧嘩・口論ならびに国質・所質・押買・押売・宿の押借以下、一切停止のこと
 - 一 町中に至り、禮責使・同打ち入りの儀、福富平左衛門尉・木村次郎左衛門尉、兩人にこれを相届け、糺明の上、申し付くべきこと
 - 一 町並居住の輩においては、奉公人ならびに諸職人たるといえども、家並役免除のこと、付けたり、仰せ付けられ、御扶持をもつて居住の輩、ならびに召し仕らる諸職人等は各別のこと
 - 一 博労の儀、國中馬売買、ことごとく当所において、仕るべきのこと
- 右の条々、もし違背の族あらば、すみやかに厳科に処せらるべきものなり

天正五年六月日

(朱印)

【Ⅰ】現代語訳

安土城下の町中に対する定(さだめ)

- 一 当所中(安土山下町)は樂市として、織田信長が命じた上は、諸座・諸役・諸公事などはすべて免除すること。
- 一 往還の商人は、中山道を通行せずに、上り下りともに当町(安土山下町)に来て寄宿すべきこと。ただし、荷物以下の付け下ろしは、荷主次第のこととする。

- 一 普請（土木工事）役は免除する。ただし、織田信長が出陣したり、在京しているなど御留守の時は、合力をすべきこと。
- 一 伝馬役は免除とする。
- 一 火事については、放火の場合は、その亭主は罪を問われない。自火（自分の家から出した火事）の場合は、調べたうえで亭主を追放する。ただし、事の状況により罪の軽重がある。
- 一 罪人について、借屋ならびに同居であつても、亭主がその仔細を知らず、仲介をしていなければ、亭主にその罪はない。犯罪者は、調べたうえで罪科に処する。
- 一 いろいろな品物の買物については、たとえその品が盗物であつても、買い主がこのことを知らなければ罪科にはあたらない。次に、その（品物の）盗賊人を逮捕した場合は、古法に任せて贓物（盗品）は返却すべきこと。
- 一 織田信長の分国中で徳政が実施されても、当所中（安土山下町）では免除する
- 一 他国ならびに他所の者が、安土山下町に移住した場合は、それ以前より居住の者と同様にして、誰々の家来といえども異議はないこととする。また給人と称して、臨時の課役を課すことは禁止する。
- 一 喧嘩・口論、及び、国質・所質・押買・押売・宿の押借などは一切禁止とする。
- 一 譴責使が町中に打ち入りの時には、福富平左衛門尉・木村次郎左衛門尉の兩人にこれを届け出て、調べたうえで申し付けるべきこと。
- 一 町並に居住する者は、奉公人、及び、諸職人であつても、家並役を免除する。織田信長から命じられて、御扶持をもらつて居住する者、及び、召し仕われている諸職人などは例外とする。
- 一 博勞（馬を売買する人）について、国中での馬の売買は、すべて当所（安土山下町）でおこなうこと。

右の条々について、もし違反する者がいれば、すみやかに厳罰に処するものである。

【II】現代語訳

条々

- 一 諸国の百姓が、刀・脇指・弓・槍・鉄砲、その他の武具の類を所持することは厳しく禁止する。その理由は、必要のない武器をもち、年貢や所当（雑税）を滞らせ、もしも一揆を企て、給人に対して道理にそむく行動をする者については、もちろん処罰する。そうなれば、そのところの田畑は耕作されず、領地は荒廃するので、その国主・給人・代官は右の武具をすべて集めて差し出すようにせよ。
- 一 右の取り集めた刀・脇指は無駄にするのではないので、この度の大仏を建立するにあたって、釘やかすがいとして使うつもりである。そうすれば、現世は言うに及ばず、来世までも百姓は助かるのである。
- 一 百姓は農具だけを持ち、耕作に専念すれば、子々孫々まで長く安心である。（豊臣秀吉は）百姓を哀れんでこのように命じられたのである。誠に国土の安全と万民の楽しみの基本である。外国では堯帝の昔、天下を鎮め、宝剣や利刀を農具に用いた、ということである。その旨を守り、それぞれその趣旨をよく知つて、百姓は農業・養蚕に精を出すべきである。

右の武器は必ず取り集めて、差し出すようにするせよ。油断してはならない。

天正十六年七月八日

(朱印)

【Ⅱ】この史料の日本史上における歴史的意義

豊臣秀吉が一五八八年（天正一六）に出した刀狩令では、第一条で、百姓の武器所持が年貢の未納につながる、として武器の没収を大名・領主に命じ、第二条では没収した武器は方広寺（京都）の大仏建立に役立てることを説き、第三条では百姓が農耕に専念することが幸福につながる、と説いた。このように武器を捨てて農業に専念するという百姓像から、兵農分離政策の一環として読み取ることができる。このことは同時に、農民の武装解除による一揆の根絶を目指し、中世の自力救済（じりききゆうさい）を否定した点も読み取ることができる。

【Ⅲ】読み下し文

貴札拝見せしめ候、殊に御太刀一腰・御馬一疋ならびに縮羅五十端拝領、畏み入り存じ候、はたまた御祝言の儀、不日御上着たるべく候、めでたく長久、貴意を得べく候、これらの趣、御披露に預かるべく候、恐惶謹言、

【Ⅳ】読み下し文

そのほう年来の忠信、祝着に候、然らば本意の上において、諏方方参百貫ならびに横田遺跡上条、都合千貫の所、これを進らせ候、恐々謹言、

問題1

弥生時代から古墳時代についての玉類の研究史について述べなさい。[1000字前後]

問題2

蛍光X線分析法と考古学への応用について述べなさい [1000字前後]

考古学

問題1

〈出題意図・解答例〉

史学・文化財学専攻（博士後期課程）のアドミッション・ポリシーに沿って、修士論文の趣旨により、基本となる弥生時代と古墳時代の遺跡から発見されている勾玉・小玉。管玉等の基礎知識を問うもので、研究史に沿って整理論述を求めた問題である。

問題2

〈出題意図・解答例〉

史学・文化財学専攻（博士後期課程）のアドミッション・ポリシーに沿って、修士論文の趣旨により、その研究方法の基礎となる蛍光X線分析法の基礎知識と考古学への応用における知識を問うものである。

別府大学大学院文学研究科

臨床心理学専攻

入試問題

解答／解答例および出題意図

修士課程：

- ・基礎心理学・臨床心理学及び関連領域
- ・外国語（英語）

I. 下記の問いに答えてください。

1. 下記の語群から Piaget,j.が示した 4 つの発達段階を選択し、発達段階の順に記入してください。

(①) → (②) → (③) → (④)

幼児期・生理的欲求期・学童期・青年期・前操作期・自己実現欲求期・具体的操作期・
感覚運動器・乳児期・肛門期・乳児期・口唇期・エディプス期・安全の欲求期・潜伏期・
性器期・老年期・生理的欲求期・思春期・承認欲求期・自己実現欲求期・形式的操作期

2. 上記に記した Piaget,j.の①～④の各発達段階の特徴を説明してください。

II. 下記の表は、心理学関連の試験を実施した際の成績です、①から⑤の問いに答えてください。

name	Major	Learning psychology	Social psychology
Skinner	Basic	75	90
Piaget	Clinical	35	80
Freud	Clinical	35	90
Watson	Basic	80	70
Bandura	Clinical	40	90
Pavlov	Basic	77	50
Lewin	Basic	78	50
Rogers	Clinical	40	90
Thorndike	Basic	85	50
Maslow	Clinical	40	80

① 学習心理学の点数について、最頻値、中央値、平均値、最大値、標本数を回答してください。

② 学習心理学の点数について、専攻による点数の差をある統計手法を用いて分析することにしました。下記の中から正しいものを選んで記号を記載してください。

(A. 対応のない t 検定 B. 対応のある t 検定 C. マン・ホイットニーの U 検定
D. Z 検定 E. 一要因の分散分析 F. χ^2 検定)

③ 学習心理学と社会心理学の点数について、相関係数及び危険率を求めたところ、 $r=-.742$, $p=.014$ という結果でした。この結果からの解釈を記載してください。

- ④ 学習心理学と社会心理学の点数差について、ある分析を行ったところ、 $t(9)=-1.3$, $p=.218$ という結果でした。この結果からの解釈を記載してください。

Ⅲ. 下記の文章を読み、各設問に答えてください。

「精神科病院にて長期入院患者への退院支援の一環として、SSTを実施することとなった。SSTは患者8名が参加し、週に1度の頻度で、1回1時間のセッションを計12回行う。SSTには心理士(師)のほか、看護師、精神保健福祉士がスタッフとして入る。」

- 1) SSTについて概説したうえで、精神科病院でSSTを行う意義について解答欄の範囲で回答してください。
- 2) 今回のSSTグループであなたは1セッションを担当することとなりました。どのようなテーマで何を目的としたセッション内容を実施するかその計画を解答欄にそって説明してください。なお、セッションの内容についてはSSTの実施手続きに基づいて記載してください。

Ⅳ. 下記の設問に答えてください。

1. 障害者福祉に関する次の記述について、空欄に当てはまる言葉を記載してください。
 - 1) 「Nothing About Us Without Us! (私たちのことを、私たち抜きに決めないで!)」をスローガンとして、2006年に国連総会で()が採択された。
 - 2) 2012年に公布された、障害者や障害児が日常生活や社会生活を送るうえで必要なサービス等が定められた法律を()という。
 - 3) 2013年に障害者差別解消法が公布され、障害を理由とする差別の禁止と()の提供が求められるようになった。
2. 介護保険制度の概要について簡潔に説明してください。

V. 下記模擬事例に関して、各設問に答えてください。

<模擬事例>

17歳男子 A，高校2年生。進学校に通い成績は優秀だったが，高1の冬頃から進路について考える際に「やりたいことが見つからない」と感じるようになった。2年生に進級して以降，授業や課題に対する意欲が徐々に低下し成績も低下，10月頃より学校を休むようになった。家では自室にこもり昼夜逆転の生活をしている。家族との会話もほぼなく，落ち込んだ様子をしている。母親に「特にやりたいこともないし，頑張る意味が分からない。何をすればいいか分からない。勉強しなきゃいけないとは思っている」と発言したことがある。

- 1) 生徒 A をアセスメントするために有用と考えられる心理検査を挙げ，その理由を述べてください。
- 2) 生徒 A の現在の状態について心理学的概念を用いて説明してください。
- 3) あなたはスクールカウンセラーとして生徒 A と個別面接を行うことになりました。アセスメントのために A に聞くべきこととその理由を述べてください。

別府大学大学院修士課程(文学研究科 臨床心理学専攻)入学試験 [2025年度 第2期]

科目名	受験番号
専門科目	解答例
I	
1. (① 感覚運動期) → (② 前操作期) → (③ 具体的操作期) → (④ 形式的操作期)	
2. 出題意図: 認知発達理論の理解度と論理的な説明力を確認するため。	
① 「0～2歳」「主に感覚と運動を通して世界を理解すること」「物の永続性」を取り上げ説明することを求めている。	
② 「2～7歳」「言語の急速な発達」「象徴的思考」「見た目に惑わされる思考」「自己中心的思考」を取り上げ説明することを求めている。	
③ 「7～11歳」「具体的な事物に限定された論理的思考」「保存の概念」「他者の視点取得」を取り上げ説明することを求めている。	
④ 「11歳以降」「抽象的思考」「仮説演繹的思考」「論理的思考」を取り上げ説明することを求めている。	
II	
① 最頻値(40) , 中央値(57.5) , 平均値(58.5) , 最大値(85) , 標本数(10)	
② A	
③ 学習心理学の点数の高い個人は, 社会心理学の点数が低い あるいは 学習心理学の点数の低い個人は, 社会心理学の点数が高い	
④ 学習心理学と社会心理学の点数に有意な差は認められない	
III	
模範解答	
【概説】ロバートポール・リバーマンにより考案されたSST(社会生活技能訓練; ソーシャルスキルズ・トレーニング)とは, 社会で人と人との関わりながら生きていくために欠かせないスキルを身につける訓練のこと。困難を抱える状態をソーシャルスキル(社会技能)と呼ばれるコミュニケーション技術の面から捉え, その向上によって困難を解決しようとする治療法である。SSTは, 認知行動療法と社会的学習理論に基づいたアプローチである	
【意義】患者は疾患によって長期間社会との繋がりが断たれたため, 生活技能や自信を喪失し, 社会適応が阻害されていると考える。再び社会生活の技能を獲得するプロセスが, SSTのアプローチである	
2) 出題意図: 事例に応じたテーマや内容設定に関する臨床的選択を問うため	
この回のテーマ:	長期入院患者に必要なと思われる内容であれば正答(解答例: 買い物, お出かけ, 電話のかけ方, 話しかけ方, 断り方, 季節の食べ物, 季節感のある被服調整など)
この回(テーマ)の目的:	テーマに沿った狙いが書かれていれば正答(解答例: 店員とのやりとりを体験する, 外出への意欲を高める, 自分から話かけることを目指すなど)
セッション内容:	①場面設定, ②モデリング, ③ロールプレイ, ④正のフィードバック, ⑤ホームワーク について取り上げ説明することを求めている。
IV	
1. 1) 障害者権利条約	
2) 障害者総合支援法	
3) 合理的配慮	
2. 出題意図: 福祉領域の法制度として, 高齢者福祉における介護保険法の目的や対象, 要介護認定, サービスの内容などを問うため。	
【解答例】介護保険法は, 社会全体で介護を支える仕組みとして2000年に施行された。介護保険制度の保険者は市町村であり, 被保険者は60歳以上の人(第1号被保険者), 医療保険に加入する40～65歳未満の人(第2号被保険者)である。	
介護保険の給付を受ける場合は, 要介護認定を受ける必要がある。要介護度は, 要介護1～5, 要支援1～2, 自立(非該当)の8段階に	
具体的なサービスは大きく居宅サービスと施設サービスに分けられる。居宅サービスとしては, 訪問介護, 訪問看護, 通所介護, 通所リハビリテーションなどがある。施設サービスとしては, 介護老人福祉施設, 介護老人保健施設, 介護医療院などがある。	
V	
1) 抑うつや精神的健康度の測定尺度を挙げれば正解。自己効力感等も正解とする(例えばBDI-IIやGHQ等)。 出題意図: 心理検査の知識と適切な選択を問うため。	
2) 動機づけの低下, 自尊心や自己効力感の低下, 適応障害, 睡眠障害の可能性などを挙げれば正解とする。 出題意図: アセスメントのための知識の活用を問うため。	
3) 生活の様子, 睡眠状況, 自己評価や将来への不安, 家族や友人との関係性, 動機, 目標となるもの, 発達歴, これまでの類似の状況等。複数述べられておりかつ支援方針とのつながりに言及できていれば正解とする。 出題意図: 体系的なアセスメントのために必要な知識を問うため。	

貸与された辞書を参照しながら、以下の文章を読み、後の問いに答えなさい。

Mindfulness is the fastest growing psychological treatment of recent years. It is officially recognized as an effective therapy for a variety of common mental health problems, and an extensive research literature on the topic has appeared since the 1990s, with many best-selling self-help books now bringing mindfulness to a general audience (e.g., Williams & Penman, 2011).

Mindfulness treatments weave Western therapeutic approaches together with practices and ideas from Buddhist philosophy. The modality which has most enthusiastically embraced this has been Cognitive-Behavioral Therapy (CBT), so much so that mindfulness has been termed the 'third wave' of CBT (the first wave being behavioral therapy, and the second the cognitive revolution). ①Along with the benefits of mindfulness itself, such approaches are popular because they can be taught in a group format over a relatively short period of time (often an 8-week course), so they are also a cost-effective way of treating mental health problems.

②[mindfulness/ the/ inevitable/ suffering/ some/ in/ idea/ key/ of/ is/ that/ degree/ life/ of]. It is our attempts to avoid any suffering – to get everything that we want and nothing that we don't want – ③that causes us to really struggle with experiences like anxiety, depression, and addiction. This is why mindfulness involves things like meditating on the breath, slow walking, or attending to the sensations in our body or the sounds around us. ④Such practices enable us to shift our habit from trying to change things to being with things as they are (Nhat Hanh, 1991). You can easily try mindfulness for yourself: sit for 5 minutes noticing your breath coming and going. Each time you find yourself distracted, just come back to your breath. You will soon realize how difficult this can be!

When people are depressed they frequently get caught in processes of rumination where they become sad, scared, or self-critical about the fact that they are feeling low. Mindfulness practices can help them to stop getting caught in such spirals: to be with their sad feelings without exacerbating them, and to be in the whole of their experience rather than focusing just on one part of it (Segal et al., 2002). ⑤[escape/ try/ generally/ or/ they/ anxious/ are/ when/ people/ avoid/ whatever/ is/ fearful/]. Paradoxically this often increases the anxiety (for example, if you put something off till the deadline, or avoid having a difficult conversation). Mindfulness suggests approaching whatever we find fearful in a curious and gentle way (Germer, 2005). For example, instead of trying desperately to escape a confrontation, we might slow down and become more aware of everything that is going on, giving us more options of how we could engage with ⑥it (with empathy for both ourselves and for any other people involved).

Randomized control trials have found mindfulness therapies – like Mindfulness-Based Stress Reduction (MBSR) (Kabat-Zinn, 1996), Mindfulness-Based Cognitive Therapy (MBCT) (Segal et al., 2002), and Acceptance and Commitment Therapy (ACT) (Hayes, 2005) – to be effective for a number of problems including anxiety and depression (see Chiesa & Serretti, 2010). There has also been great interest in neuroimaging research which has found that mindfulness practice alters brain activity over time (Holzel et al., 2011). ⑦ There have been calls for more psychological research drawing together the subjective experiences of mindfulness with further neurological and outcome research (Williams & Kabat-Zinn, 2011).

However, there are challenges in bringing mindfulness to a new, Western, audience. There is a tricky balance to be struck wherein vital aspects of the original Buddhist theories are not diluted or lost, but – at the same time – ways are found to make them accessible and explicable to non-Buddhist audiences. Also, there is a tendency for some mindfulness therapies to neglect the sociocultural situations in which anxiety and depression occur, with the focus on the internal world of the client (Cohen, 2010). ⑧ As well as helping people with their self-critical thoughts, it is important to recognize the world in which those thoughts arise, for example the commercial culture where people are encouraged to feel bad about themselves in order to buy products. And when helping people to approach fearful situations, it is important to recognize the material reality of things like poverty and discrimination, rather than assuming that fear is just 'in the mind.' If such elements can be integrated then mindfulness has great potential as a fully biopsychosocial approach to mental health (Barker, 2013).

(出典: Susan Nolen-Hoeksema et al. 2014. "The Humanistic Approach." In *16th edition ATKINSON & HILGARD'S INTRODUCTION TO PSYCHOLOGY*, 547.: Cengage Learning 一部改変)

問1. 下線部③の that が果たす役割と同じ that が用いられている文は次のうちどれか。

- A) She was so tired that she fell asleep immediately.
- B) The car that broke down on the highway was brand new.
- C) Could you pass me that book on the shelf?
- D) I heard that they are moving to Canada next year.

問2. 下線部④の such practices、下線部⑥の it が指し示す語や句を本文中の英語から抜き出さない。指示しているものは1語とは限らない。

問3. 下線部①、⑦、⑧をそれぞれ日本語訳しなさい。

問4. 下線部②、⑤の語句をそれぞれ以下のような意味になるように並び替えなさい。

②：マインドフルネスの中心的な考えは人生においてある程度の苦しみは避けられないということである。

⑤：不安を感じる時、一般的に人は恐ろしいものを何でも避けようとしたり、逃れようとしたりする。

問5. 以下の問いに最も適切な答えはそれぞれどれか答えなさい。

(ア) Which of the following is true about mindfulness?

- A) It is a recent psychological trend with little research support.
- B) It is not officially recognized as an effective therapy.
- C) It has been widely studied and is considered an effective treatment for mental health problems.
- D) It is only practiced within Buddhist traditions.

(イ) According to the passage, what often happens when people try to avoid their fears?

- A) Their anxiety increases.
- B) Their anxiety disappears immediately.
- C) They become more relaxed.
- D) They develop stronger coping mechanisms.

(ウ) According to the passage, what is a limitation of some mindfulness therapies?

- A) They focus too much on external issues like poverty and discrimination.
- B) They focus only on brain activity and ignore personal experiences.
- C) They focus on the individual's internal world while neglecting sociocultural factors.
- D) They are not based on scientific research.

別府大学大学院修士課程（文学研究科 臨床心理専攻）入学試験
解答用紙

問1	B					
問2	④	Meditation on the breath Slow walking Attending to the sensations in our body or the sound around us				
	⑥	a confrontation				
問3	①	マインドフルネスの有益性とあわせて、こうしたアプローチが人気になったのは比較的短い期間にグループ単位で教えることができるからである。				
	⑦	マインドフルネスの主観的な体験と、神経学的研究や効果研究を組み合わせた、より多くの心理学的研究が求められている。				
	⑧	自己批判的な考えを持つ人を助けることに加えて、そのような考えが生まれる世界を認識することも重要である。				
問4	②	The key idea of mindfulness is that some degree of suffering is inevitable in life				
	⑤	When people are anxious they generally try to avoid or escape whatever is fearful				
問5	(ア)	C	(イ)	A	(ウ)	C

受験番号

別府大学大学院食物栄養科学研究科

食物栄養学専攻

入試問題

解答／解答例および出題意図

修士課程：

・栄養学

・食品学

次の**栄養学**あるいは**食品学**のいずれか一方の問題を選択して解答しなさい。

栄養学

問 日本における食物アレルギー罹患の現状と疾病に対する国の施策について述べてください。さらに患者の食のQOLを維持するために管理栄養士がなすべき支援について、あなたの考えをまとめてください。

(解答欄)

アドミッション・ポリシーに準拠し、受験者が研究者、教育者、管理栄養士としての専門性を養う資質を持つかどうかを問う内容とする。

【出題意図】

1. 食物アレルギーに関する基本的理解と専門的知識の有無
2. 疾病対策における国の政策的対応と社会制度に関する理解
3. 患者の食生活の質(QOL)向上に向けた専門職としての支援意欲
4. 食物・栄養科学の応用的理解と多職種連携への関心
5. 地域社会・国際社会への貢献意識、ならびに高度専門職業人としての資質

【解答方法】

1. 食物アレルギーの現状や課題を統計や公的報告に基づいて簡潔に記述する。
2. 国の取り組みについては法制度やガイドラインを引用し、施策の骨子と課題を整理する。
3. 管理栄養士の支援については、科学的視点・社会的視点の両面からの支援策を提示する。
4. 具体的事例や学術文献を引用し、客観性と専門性を高める。
5. 高い社会貢献意識と専門職としての視座を持って記述する。

【模範解答】

日本における食物アレルギー罹患の現状と国の施策

食物アレルギーは、特定の食品摂取によって免疫系が過剰反応を示す疾患であり、小児を中心に年々有病率が増加している。厚生労働省の「アレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針

(2020年改訂)」によれば、学童期で約5%、乳幼児では10%近くの有病率が報告されており、アナフィラキシーなどの重篤な反応も一定数存在する。このような状況を受け、国は「アレルギー疾患対策基本法」(2015年施行)に基づき、全国的な実態調査、専門医療機関の整備、学校・保育所における緊急対応マニュアルの普及などを推進している。また、文部科学省は「学校給食におけるアレルギー対応ガイドライン」を整備し、児童・生徒の安心・安全な学校生活の実現に努めている。

食のQOLを支える管理栄養士の支援

食物アレルギー患者にとって、食物除去は生命を守る重要な手段である一方、栄養不足や食の楽しみの喪失といったQOLの低下を招くこともある。ここで管理栄養士の果たすべき役割は極めて大きい。

まず、正確な除去食・代替食品の提案と栄養バランスの確保が挙げられる。特に乳・卵・小麦など主要アレルゲンの除去に際しては、成長期の小児に必要なカルシウム・たんぱく質・ビタミンB群などの摂取確保が課題となる。最新の食品科学の知見を活かし、例えば加水分解技術や加熱処理によるアレルゲン性低減の研究動向を踏まえた食品提案も、専門職として求められる支援の一つである。

また、心理的ケアにも目を向けるべきである。食物アレルギーを持つ子どもとその保護者は、「食べること」への不安から社会活動の制限や孤立を感じることもある。患者・家族との対話や食育活動、調理体験の提供を通じて、「食べられる楽しさ」や「安心して食べる生活」の再構築を支援することが、管理栄養士の専門的使命といえる。

さらに、保育所・学校・給食施設との連携を通じた集団対応の調整、教職員への研修・マニュアル整備支援も重要な実務である。地域住民の健康向上に資する栄養支援体制の構築には、行政・教育機関・医療機関との多職種連携が不可欠である。

食品学

問題 1. ビタミンに関する以下の問いに答えよ。

(1) 酸化されやすいビタミンを2つ答えよ。

(解答欄)

ビタミン C	ビタミン E
--------	--------

(2) (1) で挙げたビタミンについて、その酸化還元機構をそれぞれ説明せよ。

(解答欄)

【ビタミン C】

還元型ビタミン C (L-アスコルビン酸) の酸化には、非酵素的酸化と酵素的酸化がある。

非酵素的酸化は、空気中の酸素によって起こる酸化である。L-アスコルビン酸は、酸素の存在下で容易に酸化され、L-デヒドロアスコルビン酸 (酸化型ビタミン C) になる。この反応は可逆的であるため、L-デヒドロアスコルビン酸は生体内でグルタチオンや酸化還元酵素などによって L-アスコルビン酸に還元される。このサイクルによって、ビタミン C は生理機能 (抗酸化能) を発揮する。ただし、L-デヒドロアスコルビン酸が加水分解された 2,3-ジケトグルロン酸は L-デヒドロアスコルビン酸や L-アスコルビン酸に還元されないため、抗酸化能をもたない。

酵素的酸化にかかわる L-アスコルビン酸オキシダーゼは、にんじんやきゅうりなどの食品に含まれており、植物組織が損傷を受けることで活性化する。この酵素は、L-アスコルビン酸を基質として L-デヒドロアスコルビン酸を生成する。

【ビタミン E】

ビタミン E はトコフェノールとトコトリエノールの 2 種類があり、それぞれに α 、 β 、 γ 、 δ 体の 4 種類が存在するため、計 8 種類の同族体が存在する。ビタミン E の主な生理機能は、生体膜の酸化抑制であると考えられている。脂溶性のラジカル捕捉剤として機能し、ラジカルを速やかに消去することで脂質の自動酸化を抑制する。ビタミン E が酸化されるとビタミン E ラジカルが生成されるが、これはビタミン C から電子を受け取ることで還元され、再び抗酸化物質として機能する。ビタミン E の生理活性 (生体内における抗酸化活性) は、 $\alpha > \beta > \gamma > \delta$ ・トコフェノールの順に強い。一方、トコトリエノールの抗酸化能はトコフェノールより弱い。

問題 2. 水に関する以下の用語を説明せよ。

(1) 結合水

(解答欄)

結合水とは、水分子が水素結合により食品成分と結合したり、食品組織の中の非常に細かいすきまに閉じ込められたりした水である。そのため、(1) 食品成分の表面に強く束縛されて運動性をもたない、(2) 0°Cでは凍結せず、蒸発もしにくい、(3) タンパク質、糖質、無機塩類などの溶質を溶かす溶媒作用をもたない、(4) 微生物の生育に利用されない、(5) 化学変化に関与しない、などの性質を持つ。

(2) 水分活性

(解答欄)

食品の保存性を考える際には、水分含量よりも自由水の割合が重要である。自由水とは、食品の成分に束縛されず自由に運動できる水のことである。そのため、(1) 0°Cで凍結し、乾燥で蒸発する、(2) 溶質を溶かす溶媒になる、(3) 微生物の生育に利用される、(4) 各種の化学反応や化学変化に関与し、食品の劣化の原因となる、などの性質をもつ。

水分活性 (A_w) は、食品中の自由水の割合を示す指標であり、一定の条件における、純水の蒸気圧に対する食品の蒸気圧の比として表される。これは、その食品を入れた密閉容器内の相対湿度の 1/100 に等しい。水分活性の値が低いほど自由水の割合が少ないことを表している。

題 3. 脂質に関する以下の問いに答えよ。

(1) 不飽和脂肪酸は炭素数が同じでも二重結合の数が多いほど融点が低くなる。その理由を説明せよ。

(解答欄)

天然の不飽和脂肪酸の二重結合は、一般にシス型の立体配座をとるため、分子が折れ曲がった構造となり、分子同士が密に凝集しにくくなる。これにより、分子間力が弱まり、融点が低下する。二重結合の数が増加すると、分子の折れ曲がりが増え、分子間力がより低下するため、融点は一層低くなる。

(2) 油脂の性質を表す指標を1つ挙げ、説明せよ。

(解答欄)

過酸化値

油脂に含まれる脂肪酸のうち、二重結合を有する不飽和脂肪酸は自動酸化を起こすが、その初期段階で生成する過酸化脂質（ヒドロペルオキシドなど）の量を示す値を過酸化値という。過酸化脂質とヨウ化カリウムを反応させて生じたヨウ素をチオ硫酸ナトリウムで滴定して得られる、油脂 1 kg に対するヨウ素のミリ当量数を過酸化値とする。

過酸化値は、油脂の酸化の初期段階における指標であり、酸化後期では過酸化脂質が分解するため過酸化値は減少する。

問題 4. 食品に含まれる色素を1つ挙げ、説明せよ。

(解答欄)

古くより、赤シソや紫キャベツの煮汁にお酢を加えると色が変わることが知られている。この現象は、アントシアニンと呼ばれる化合物によって引き起こされる。アントシアニンは、果実や野菜などに広く含まれるフラボノイド系色素であり、一般に赤色から青紫色の色調を呈する水溶性配糖体である。

アントシアニンの色素成分であるアグリコン（非糖部分）はアントシアニンと呼ばれる。食品中からは、ペラルゴニン、シアニン、デルフィニン、ペオニン、ペチュニン、マルビニンの 6 種類が確認されており、それぞれヒドロキシル基またはメトキシル基の置換様式の違いによって、異なる色調を示す。紫キャベツに含まれるアントシアニン類は、主にシアニン系化合物である。

これらの色素は、水溶液中の pH に依存して可逆的な構造変化を示し、それに伴って呈色も変化する。酸性条件下では、アントシアニンはフラビリウムイオン型構造を取り、赤色を呈する。pH が中性に近づくにつれて、プロトンが脱離し、中性のキノイド型構造（以前は「アンヒドロ塩基」とも呼ばれていた）となり、赤紫色から紫色へと変化する。さらに、アルカリ性条件では、この構造がアニオン化し、青または青紫色を呈するようになる。

ただし、これらの中性および塩基性構造は水中で不安定であり、加水反応が進行することで無色のシュード塩基（カルビノール型）が生成される。そのため、時間の経過とともに色が薄れ、最終的には無色に近い状態となる。シュード塩基への構造変化は可逆的ではないため、アントシアニンによる安定な呈色を維持するためには、pH の制御および共存物質（共役基、金属イオンなど）の影響を考慮する必要がある。